

感謝と賛美とリバイバルキャンプ 2018. 3. 26～2018. 3. 31

■ テモテ山川 (TLCCC 東京アンテオケ教会・牧師)

皆様のとりなしのお祈りを感謝いたします。今年の感謝と賛美とリバイバルキャンプは3月26日(月)～31日(土)に行われました。拠点となったのはロサンゼルス郊外トーランスの都ハイブリッドホテルで、毎日の早天聖会と夜の聖会が行われました。2日目、3日目は後の雨リバイバルの発祥の場所であるボニーブレアハウスでの祈り込みとハリウッドの路上ライブに分かれました。



聖会ではバトンルーージュ教会の上館牧師の感謝の証、ニューヨーク教会の浅野牧師、サンディエゴ教会のダンケン牧師の証の時が持たれました。また夜の聖会の時に行われたEJさんの音楽セミナーでは、賛美についての具体的なプレゼンテーションがなされました。また2日目の夜の聖会の後には、現地の方の突然の洗礼式が行われるというサプライズがありました。

4日目の夜の聖会の時には、マーリン師を偲ぶ会が行われ、1人が100万人を導くという以前に語られたメッセージが流され、マーリンさんが残してくれた私たちへのメッセージを再び思い出すことができました。秋元牧師のメインメッセージでは、感謝と賛美のメッセージとともに、後の雨リバイバルの発祥の地ロサンゼルスとマーリン師の拠点であるサンディエゴにわたるこの地はイスラエルやパトモスと共に霊的なポイントであるということが語られました。

最終日の夜にはブラザー・スティーブ氏とともに2人のゲストが来られ、ゴスペルショーケースの時が持たれ、11組の賛美チームが参加し、それぞれが高い評価と励ましを受けました。特に「花色」や「十字架に主イエス」を英語で賛美する中で、とても良い曲であると3人のブラックゴスペルのプロの方々から感想をいただき、「風のひびき」「やすらぎの歌」のオリジナルゴスペルが高い評価を受けました。また、ハリウッドの路上で賛美を聴いた日本人旅行者の女性が、ハリウッドから車で1時間はかかるホテルまで、ゴスペルショーケースを見に来られ、聖会にも参加し、大変喜んでおられました。

今回のキャンプにThe Visionからはスタッフ6人が参加。ハリウッドの路上ライブのお世話係をさせていただきました。夏のような鋭い陽射しが照りつける中、コダックシアター前とForever 21前の2カ所で10時から15時まで、いくつものチームがJ. Gospel を歌いました。多くの方が通りかかり、立ち止まってずっと聴き入っている人もおり、ハリウッドにJ. Gospel が響き渡りました。

また、The Vision アメリカ支部のEJさんといろいろ打ち合わせをすることになっていたのですが、聖会の中で行われた2回のEJさんの音楽セミナーでは、アレンジに大きなポイントがあることが語られ、音源制作に必要なものに関して具体的なプレゼンテ

ーションがありました。EJ さんを通して、アメリカにおける著作権登録のこと、アメリカそして世界において J. Gospel の働きを進めていくためのビジョンや具体的な方法に至るまで様々なレクチャーを受け、The Vision スタッフにとっては今までにない意味のある充実したキャンプになりました。

また、その他のプログラムとしていつものように、ディズニーランドやユニバーサルスタジオには子供たちが参加し、楽しんでいました。連日行われたアズサストリートリバイバルの発祥の地であるボニーブレアハウスでの祈り込みには多くの人が参加し、深い祈りの時が持たれ、たくさんの祝福に満ちたキャンプでした。

■山本節子

(TLCCC 神のしもべ長崎教会・牧師)

皆様のお祈りを感謝します。3/26～3/31 までアメリカのロサンゼルスで、感謝と賛美とリバイバルキャンプがもたれました。

日本から 34 人、現地から 8 人の 42 人が参加しました。リバイバルが起きたボニーブレアハウスでの祈り込みが 3/27、28、29 の 3 日間、ハリウッドでの路上ライブが 3/27、28 の 2 日間ありました。また、トーランスにある、都ハイブリッドホテルで毎日、早天聖会と夜の聖会がもたれ、パウロ秋元牧師を通してローマ人への手紙 8:28、第 1 テサロニケ人への手紙 5:18 からメッセージが語られました。また、その他各牧師を通してショートメッセージが語られました。その中で、パウロ秋元牧師を通し、ロサンゼルスからサンディエゴまでの地域は霊的なポイントがあることが語られました。又、ロサンゼルスでのチャーチオンザウェイでの祈り込みから、リバイバルの約束のことばが与えられ、チャーチオンザウェイを通して、オーケストラのことも示されたことが、語られました。

ゴスペル界の器であるブラザー・スティーブとの関わりも、ロサンゼルスから始まり、またマーリン・キャロザース師もサンディエゴ付近におられ、このような世界的な器は稀有であり、その方との関わりが与えられた、と話されました。

また、28 日の夜にはマーリン師を偲ぶ会が行われ、マーリン師のメッセージを映像で視聴しました。29 日は、ホテルでゴスペルショーケースが行われ、ブラックゴスペルの方々に聞いてもらい、評価をしていただきました。参加者は 11 チームで半数以上がクリスチャン 2 世の人達で、新たな世代が用いられているのを感じました。

私は、ボニーブレアハウスで祈り込むことができ、祝福されました。その番地は 216 番で、気にも留めていませんでしたが、ある牧師さんが、使徒 2:16 と同じですよと教えて下さり、「これは預言者ヨエルによって語られたことです。(16 節) 『神は言われる。終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を身、老人は夢を見る。』 (17 節)」の箇所だったので感動しました。

リバイバルは始まっていますが、さらにアズサリバイバルの時のような、いや、それ以上のレベルの主の働きが、この終わりの時代に起こることを身近に感じました。またロサンゼルス教会の牧師の証しから、12/25に聖会を持つとしたが、なかなか見つからず、その結果ボニーブレアハウスが開かれ、預言のセミナーとカリスマ聖会がそこで行われたと聞きました。そのこと自体、神さまの導きを感じました。

私はかつてロサンゼルスの大地震が起こった直後に、チームでアメリカに行きました。その際、プレイヤーチャペルで祈っていた時、神様から献身を促されましたが、まだいいですと答えた瞬間、体が飛び上がるほどの縦揺れの強い余震が起こり、あわてて、神様、献身しますと、祈ったのを覚えています。私にとっても、ロサンゼルスは霊的なポイントだったのを思い出しました。

また、マーリン師を偲ぶ会の映像で、マーリン師が、100万人をキリストに導くと、語られるのを聞きました。その中で、物を書く能力も、力も無い少年を、書ける者にして下さったのは、聖霊によることを話されていました。教授たちから、君は物を書く能力が全然無いよ、と言われたにもかかわらず、やり続けた結果、本が59ヶ国に翻訳されて世界に宣教がなされていることを話され、とても心に響きました。最終日の早天聖会では、「何があっても感謝します」という決心の招きの祈りがなされ、会場で皆、「感謝の決心」をしました。それは、とても大きかったと思います。本当に祝福の原点のような気がしました。

